

2020年7月5日(日)礼拝説教要約

説教「悲しみは喜びに変わる」

(ヨハネ福音書16章16～33節)

先週は、今年の梅雨の後半に入り、たくさんの雨が降り、熊本の方では大きな被害が出ました。被災された方々の上に、また、犠牲となられた方々のご家族の上に、神様の助けと守り、慰めと励まし、平安がありますようにお祈りいたします。

今日、取り上げます御言葉は、ヨハネ福音書16章16～33節です。特に「あなたがたは悲しむが、その悲しみは喜びに変わる」という御言葉を中心としてメッセージを聴いて参ります。

まず、16節にはこうあります。

「しばらくすると、あなたがたはもうわたしを見なくなるが、またしばらくするとわたしを見るようになる」と。

これから、わたしは十字架に架かり処刑され、あなたがたは、もう私を見なくなる。しかし、私が復活した時、また、聖霊を降した時、再びわたしは、あなたがたに会うことになる。そうおっしゃるのです。

弟子たちは、その意味を理解できないでいましたが、イエス様は、弟子たちがその意味を分かる日が来ることを知っておられました。

ですから、こう続けます。

「はっきり言うておく。あなたがたは泣いて悲嘆に暮れるが、世は喜ぶ。あなた方は悲しむが、その悲しみは喜びに変わる」と。

これから私が十字架に架かれば、あなたがたは泣いて悲嘆に暮れるであろう。逆に、世の人は、わたしが処刑されれば喜ぶとおっしゃいます。

実際、イエス様が十字架にお架かりになった時、弟子たちはイエス様の死を悲しみ、また、

裏切って懺悔の思いから激しく泣きました。他方、ユダヤの指導者たちとそれに率いられた群衆は、イエス様が処刑されたことを喜んだのでした。

しかし、イエス様はこうおっしゃいます。

「あなた方は悲しむが、その悲しみは喜びに変わる。女は子どもを産む時、苦しむものだ。自分の時が来たからである。しかし、子どもが生まれると、一人の人間が生まれ出た喜びのためにもはやその苦痛を思い出さない」と。

イエス様は、ご自分が十字架に架かることを出産にたとえ、十字架の苦しみの後には大きな喜びがあることを語るのです。

では、その喜びとは何を指すのでしょうか。そのことについてイエス様はこうおっしゃいます。

「このように、今はあなたがたは悲しんでいる。しかし、わたしは再びあなた方と会い、あなたがたは心から喜ぶことになる。その喜びを奪い去る者はいない」と。

つまり、「大きな喜び」とは、再会の喜びを指しています。イエス様は十字架に架かり、処刑されますが、その三日目に復活される。また、イエス様の霊・聖霊を与えてくださる。その時に、弟子たちはイエス様に再会する。そのように、再会の喜びがあることを告げるのです。十字架による別れがあり、弟子達には大きな悲しみがあるけれど、再び会える大きな喜びがあることを語るのです。

この「悲しみは喜びに変わる」とは、私たちの人生において言えることです。

人生には苦しみ悲しみがありますが、その苦しみ悲しみを乗り越えた後、大きな喜びが与えられます。そのことをイエス様は十字架と復活の出来事を通して教えてくださいました。神様・イエス様が、苦しみ・悲しみを喜びに変えてくださるのです。

「悲しみは喜びに変わる」とは、聖書が一貫して教えていることです。絶望から希望へ、闇

から光へ、悲しみ・苦しみから喜びへと、神様は、私たちを、この世界を導いてくださるので
す。神様・イエス様は、必ず苦しみ悲しみを喜び変えてくださるのです。

2020年7月5日(日)説教抄(説教本文から)

「そのように、この『悲しみは喜びに変わる』と言う言葉は、何よりも、イエス様の十字架と復活の出来事において実現したのだということを忘れてはなりません。

私たちは、イエス様の十字架と復活の出来事によって、悲しみが喜びに変えられたことを知りました。悲しみは必ず喜びに変えられる。この言葉が、このイエス様によって私たちすべての者の上にも実現し、現実のものとなったのです。

しかし、よくよく聖書を読んでもみると、この『悲しみは、喜びに変わる』という御言葉は、聖書が最初から一貫して語ってきた言葉、告げてきたメッセージであると言えます。

例えば、創世記の冒頭に、こういう言葉があります。「地は混沌であって、闇が深淵の面にあり、神の霊が水の面を動いていた。神は言われた、『光あれ』、すると、光があった」と言う言葉、あるいは、「夕べがあり、朝があった。第一の日である」と言う言葉、ここには、闇から光へ、絶望から希望へ、悲しみから喜びへという信仰が表されています。これが聖書の信仰です。

また、詩篇126編には、こうあります。「涙と共に種まく人は、喜びの歌と共に刈りいれる。種の袋を背負い、泣きながら出て行った人は、束ねた穂を背負い、喜びの歌を歌いながら帰って来る」。涙を流しながら種をまいた人には、必ず収穫の時が来る。泣きながら種をまき、作物を育てた人には、必ず喜びながら収穫する時が来る。喜びの歌を歌いながら、神の元に帰ってくる日が来る。ここにも、悲しみから喜びへと導く神の恵みが歌われています。

また、詩篇119編には、こうあります。「苦しみにあったことは、わたしに良いことです。これによって、あなたのおきてをまなぶことができました」。ここには、むしろ、苦しみがあったことで、神様の教えを学ぶことができた。神様を知ることができた。

苦しみにあつてこと、悲しみにあったことは、私にとって本当に良かった。

そういうのです。

このように、聖書は、人生の苦しみは、必ず喜びに変わることを、いや、神様は苦しみ・悲しみを通して喜びに至らせてくださることを教えています。

苦しみ・悲しみは、決して無意味なものではなく、苦しみ・悲しみには、大事な意味があることを教えています。

そのように、苦しみと悲しみにもまた深い意味があり、苦しみと悲しみの中には大きな恵みが隠されています。そして、その苦しみと悲しみを通して私達は本当の喜び、真の喜びに到達するのです。

「悲しみは喜びに変わる」とおっしゃったイエス様、十字架に架かった後、復活されたイエス様が、私達の苦しみ・悲しみを喜びに変えてくださらないはずはない。

私たちのことを愛してやまない、神様・イエス様が、この苦しみ・悲しみを喜びに変えてくださらないはずはないのです。神様が、イエス様が、この苦しみ・悲しみを、必ず、大きな喜びに変えてくださるのです。

今日、私たちは、「悲しみは喜びに変わる」という御言葉を聞きました。たとえ今、どんなに悲しくても、どんなに苦しくても、その苦しみ・悲しみは喜びに変わる。

神様が、イエス様が、悲しみを喜びに変えてくださる。私達は、そのことを強く確信し、また、その愛と恵みに深く感謝し、確かな希望をもって、さらに、歩んで参りたい。そう思うので

す。」